

被災地巡検を通して

私は昨年度に続き、2回目となる被災地巡検に参加した。昨年は、防災の有効性とその限界について考えたが、今年はそれ以上に、「防災に従うだけの人間では命を守れない」という現実を強く突きつけられた。

災害は人間の想定をはるかに超える。どれほど綿密なマニュアルであっても、すべての状況を想定することは不可能である。むしろ実際の災害では、「想定外」に直面することの方が多い。そのとき、「マニュアルにないから動けない」という状態に陥れば、その瞬間に生き残る可能性を自ら手放してしまうことになる。

つまり、防災において本当に問われるのは知識の量ではなく、「その場で判断できるかどうか」である。私は今回の巡検を通して、防災とは「正解を覚えること」ではなく、「正解のない状況で選択できる力を持つこと」だと気づいた。

また、災害時には自分だけでなく、周囲の人の命も判断に委ねられる。特に子どもなど、自ら判断できない人々を守るためには、誰かが迷わず行動する必要がある。その「誰か」になる覚悟がなければ、本当の意味で命を守ることはできないと感じた。

さらに、「ここには津波は来ない」「今までは大丈夫だった」という思い込みの危険性も痛感した。過去の安全は、未来の安全を保証しない。にもかかわらず、人は簡単に安心し、考えることをやめてしまう。その瞬間に、危険はすぐ隣まで近づいているのだと思う。

加えて、「ハザードマップを見た」「防災リュックを準備した」という事実だけで安心してしまう自分たちの意識にも問題がある。準備はあくまで「余裕をつくる手段」であり、それ自体が命を守るわけではない。最後に命を左右するのは、結局その場での判断である。

また、そもそも人は緊急時になると冷静な判断が難しくなるという点も重要であると感じた。強い不安や恐怖に直面すると、人は視野が狭くなり、普段であれば当たり前に行える判断や行動が取れなくなる可能性がある。周囲の状況を正確に把握できなくなったり、他人の行動に流されてしまったりすることで、本来選ぶべきではない行動をとってしまうことも考えられる。さらに、「誰かが何とかしてくれるだろう」という無意識の依存や、周囲と同じ行動をとることで安心しようとする心理も働きやすい。このような状態では、自分の意思で判断することが難しくなり、結果として避難の遅れや誤った行動につながる危険性がある。だからこそ、日頃からさまざまな状況を具体的に想定し、「自分ならどう行動するか」を考えておくことが重要であると感じた。あらかじめ考えておくことで、実際の災害時にも完全に思考が止まることを防ぎ、冷静さを保ちながら判断することにつながると思う。

この現実を踏まえ、私は今後、受け身の防災から脱却したいと考える。学校生活においては、避難訓練を「決められた通りに動く場」としてではなく、「自分の判断を試す場」として捉え直す。例えば、あえて事前に避難経路を知らせない避難訓練に加え、「教室内や校内に取り残された生徒がいる」という想定を取り入れた訓練を提案したい。このような状況では、自分だけが避難すればよいわけではなく、周囲の状況を把握し、助けるべきか、応援を

呼ぶべきかなどを瞬時に判断する必要がある。また、誰か一人の行動が周囲の行動を左右する可能性もあり、その責任の重さを実感する機会にもなると考える。

さらに、訓練後には必ず振り返りを行い、「なぜその行動をとったのか」「他にどのような選択があり得たのか」を考えさせることで、単なる作業としての訓練ではなく、「思考する防災」へと変えていきたい。この振り返りの積み重ねによって、生徒一人ひとりの判断力は確実に高まっていくと考える。

生徒会執行部としては、このような取り組みを学校全体に広げ、「指示を待つ集団」ではなく「自ら判断して動ける集団」をつくることを目標としたい。そのために、防災に関する情報発信や意識づけにも積極的に取り組み、日常の中で防災を考える機会を増やしていきたいと考えている。

そして将来においても、この「瞬時に判断する力」は災害時に限らず、あらゆる場面で求められる。予測できない状況の中で、自分の頭で考え、最善の選択をする力は、これからの社会を生きていく上で不可欠である。この巡検で得た学びを一過性のものにせず、日々の生活の中で意識し続け、自分の力として定着させていきたい。また、この力を身につけることは自分の命を守るだけでなく、周囲の人々の安全にもつながるため、その重要性を他者にも伝えていきたいと考える。

また、今回の巡検を通して、自分自身もまた災害時には常に冷静に判断できるとは限らないということに気づかされた。頭では理解しているつもりでも、実際に強い不安や恐怖に直面したとき、同じように行動できるかはわからない。人は予想以上に状況に影響を受けやすく、焦りや混乱の中で、本来であれば選ばないような行動をとってしまう可能性もある。さらに、自分では大丈夫だと思っても、周囲の状況や他人の行動に引きずられ、判断が鈍ることも考えられる。そのような中で本当に必要なのは、「自分は完璧に行動できる」という前提ではなく、「自分も迷うかもしれない」という前提に立つことであると感じた。だからこそ、自分の弱さを認めた上で、日頃から繰り返し考え、さまざまな状況を想定し続けることが重要であると考え。その積み重ねが、いざというときに完全に思考が止まることを防ぎ、少しでも冷静な判断へとつながるのではないだろうか。

今回の巡検で得た最大の学びは、「守られる側でいる限り、命は守れない」ということである。だからこそ私は、どんな状況でも自ら判断し、行動できる人間になる。そして同時に、その力を周囲にも広げていきたい。また、このような判断力は一度身につけて終わりではなく、日々の意識と経験の積み重ねによって磨かれていくものである。だからこそ私は、この巡検で得た気づきを忘れず、日常生活の中でも繰り返し考え続けていきたい。